報徳＠なう
発行人：田嶋 享

クラウドファンディング開始！！

9月14日から始まった報徳食センターのクラウドファンディング（大衆資金調達）は以下のような進行状況です

目標金額
250 万円
9 月 28 日末現在
109.2 万円
達成率
43%
残り 30 日
（10 月 28 日まで）

皆様方のご支援で、順調に進んでいます。しかしながら、まだ 4 割を越えたばかりです。フードバンクは地味な事業です。一般の方が、多くのクラウドファンディング案件の中で特に興味を持っていただくテーマではありません。地域の方、福祉に関心を持っていただいている方が頼りだと思っています。既に皆様にはご支援をいただいておりますが、さらにご支援の輪を広げていただくようお願い申し上げます。

いまテレビを賑わしている自由民主党総裁選挙の討論の中でフードバンクの政府支援の議論も出ています。フードバンクの必要性は認識されてきていますが、まだ公的支援はありません。今は、皆様方が私たちの頼りです。

箱根の芸妓さんもコロナ禍で大変です

コロナ禍で世界的な観光地箱根も大打撃を受けました。外国人はもちろんの事、日本人観光客も少ない状況です。



箱根の芸者さん・コンパニオンさん達は箱根の花であり、この温泉町の夜を華やかに彩っていました。

しかし、昨年来彼女達の稼ぎは例年のたったの一割で、文字通り危急存亡の崖っぷちに立っています。

このままだと、コロナが去って観光客が戻って来ても、お客様を接待する芸者さん達が誰もいなくなる恐れもあります。

また、意外にも芸妓、コンパニオンさん達にはシングルマザーが多いのです。華やかなサービスの仕事が終わり家に帰れば子育てが待っています。ところが、コロナ禍で収入が激減して生計が立てられなくなり、子どもたちにも満足な食事が与えられなくなりました。

私たち報徳食品支援センターは、生活に困っている方々に食品を提供してきました。当地ならではの事情で生活に困っている箱根湯本芸能組合に属するシングルのお母さんや、引退して細々とアルバイトで暮らしてきた元芸妓のおばあさんたちを食料提供で応援しています。

箱根のスーパーレディ 活躍！

そのような現状で獅子奮迅の活躍をされているのが、置屋「松芳」の女将の竹沢政子さんです。湯本の芸能組合で広報部長もされていて、

竹沢政子さん



コロナ禍で滅びそうになっている箱根の伝統芸能を守るためのクラウドファンディングを実行され大成功を収められました。そして、芸妓さんと当センターの間に立って生活に困っている芸妓さんたちに食品を配る手配をしてくれました。

竹沢政子さんに語っていただきました。

「箱根湯本で置屋をやっている『松芳』の女将です。箱根の見番（芸妓組合の事務所であり、芸妓さんの歌舞の稽古場）には１２０名の芸妓がおります。

二〇二〇年三月から宴会が無く私たちの営業がほとんどできなくなりました。売り上げは大幅になくなり、今に至るまで売り上げは例年の一割です。私たちは仕事をしたくとも、なかなか出来ません。一に家賃、次に食料品と、お金がかかります。大変な事になってしまいました。

私達の中には、子供を抱えているお母さんが多くいるのが事実です、そのお母さん達は、売り上げもなくお給料を手にすることが出来ず非常に不安な日々を過ごしていました。

そんな中、報徳食品支援センターさんに声をかけたところ、たくさんの食品を届けて頂きました。心からお礼申し上げます。うちの置屋（芸妓を派遣するお店）だけでも大変な量を届けていただいた上に、見番までたくさんの食料を届けていただき心より感謝しております。代表してこ

の場をお借りし、感謝申し上げます。

まずは米、野菜、油、調味料など、痒い所に手が届くように食料を届けていただいており、そして今も続いています。どれだけ有り難いことでしょう、まず食料を確保して一日十分食べられるという事が心の支えになり、家族の支えにもなるのです。毎日毎日その積み重ねが出来ることが私たちの心の安全になります。

そうした私たちを横から後ろから支えている支援の皆様には本当に、本当に感謝申し上げたいと思います。

またこの支援を少しずつ広げて困っているお母さん達、母子家庭の皆さまに私たちと同じような支援が届いたらと考えております。」

京都の酒米

京都府庁からの酒米2.5トンが9月13日当センターに届きました。京都の銘酒「月桂冠」の大倉酒造が契約栽培している酒米「祝」です。緊急事態宣言で居酒屋、料理屋でお酒が出せず、日本酒の生産を減らしたので酒米が余ったのです。大倉酒造が京都府に委託し、京都府が「お米の消費促進」の予算を活用して子ども食堂や母子家庭向けに配布しました。

酒米なので糖分が若干多く、蛋白質が少ないそうですが、食べてみたら十分に美味しかったそうです。





「餃子の王将」からの弁当提供終了



8月17日から9月13日まで行われた「餃子の王将」弁当配布プログラムは予定通り終了しました。報徳食品支援センターが担当した3店舗での実績は、小田原店655食、沼津店520食、平塚店103食の合計1,278食でした。小田原市母子寡婦福祉会はじめ弁当をお店に受け取りに行かれた各組織の方の努力には、頭が下がりました。

1食の変更も無く予定通り配り切りました。その活動を支えたのは、お弁当をもらった方達の喜びの声でした。援助対象の子どもだけでなく、お母さんの分もお渡ししたのが良かったです。何と言っても王将さんの「餃子鶏の唐揚げ弁当」が美味しくて、ボリュームがあった事が嬉しかったようです。

王将さん、ありがとうございました。



災害用備蓄品の人気

日本のフードバンクに提供される主要な食品に災害時のための備蓄食品があります。アルファ米や缶入りパンです。東日本大震災以来企業や官庁、学校等での備蓄が進み、5年間の備蓄期間が過ぎたものが毎年大量に提供されるようになっています。品質改良も進み、例えばアルファ米を電気釜で炊くと実に美味しいご飯になります。しかし日本人にはあまり歓迎されません。保存用の飲料水はまずもらっていただけません。古い＝まずいというイメージがあるのかもしれません。味が劣化しないうちに新しいものに置き替えています。もっと活用していただいてもいいと思っています。

困窮している外国人は積極的にもらって行きます。災害時の炊き出し用の大きなアルミ袋に5kg入っているアルファ米は、日本人はまず断りますが、外国人は一家庭に一袋を持って帰って、少しずつ小分けして食べているようです。食品を大切にして工夫しながら食べていられるようです。水も勿論もらって行きます。日本の水の品質を信頼しているのです。

外国人の方はえり好みをしていません。

追記

災害用食品というと、非常食＝まずいというイメージがあります。しかし、今やこれらの食品はスポーツ用品店で売られています。若い人・家族にキャンプが大人気です。その人たちが愛用するのはフリーズドライの食品です。コンパクトでとても美味しいです。そしてお湯を入れて3分で炊き込みご飯、パエリヤ等の美味しいご飯ができます。時間はかかりますが、水でも美味しく食べられます。防災食品も一度食べると、やみつきになりますよ。

編集後記

皆様方のご支援に感謝するだけです。これからもよろしくお願いします。涼しくなってきました。健康にご留意ください。